

◆その他の調査

1 左京一条二坊十五坪の調査 (第282-2次)

調査区は昨年度におこなった第269-1次、および第269-13次調査区の南方に位置し、法華寺によって条坊の乱れる東二坊大路の北延長部と、一条条間路の西延長部にあたる。本調査区の北辺が一条条間路の南側溝推定位置にあたるため、部分的に北に拡張した。検出した遺構は、2棟の掘立柱建物の西南隅部分と、中世の土坑、それ以前の井戸などで、条坊遺構は検出されなかった。また、建物はいずれも既調査区とはつながらない。本調査区は昨年度調査の所見(269-1・13次調査『年報1997-III』)どおり、通常の坪よりも大きな面積をしめる左京一条二坊十五坪の南東端の一郭としてよからう。(箱崎和久)

2 左京三条一坊二坪の調査 (第282-4次)

事務所用ビル建設にともなう発掘調査。左京三条一坊二坪の東辺で坪中心より北によった位置にあたる。調査区は南北9m、東西11.6m。基本層序は上から耕作土、床土、灰褐土、灰褐粘質土、褐色砂(遺構確認面)。

奈良時代のものと考えられる総柱建物SB7150、掘立柱南北棟建物SB7153、南北塀3条、東西塀1条を確認した。このほか、性格・時期不明の置き石SX7157も検出した。SB7150は桁行・梁間ともに柱間6尺等間で南北3間、東西2間以上。SB7153は桁行・梁間ともに柱間6.5尺等間で桁行3間以上×梁間2間。SX7157は長さ・幅約80cm、厚さ約40cmの花崗岩2つを据付穴を掘って安置したものの。SB7150よりは新しい。

今回、比較的密に分布する小規模な建物と塀を検出した。これは坪の中心部から外れるという調査区の位置と関連するかもしれない。(加藤真二)

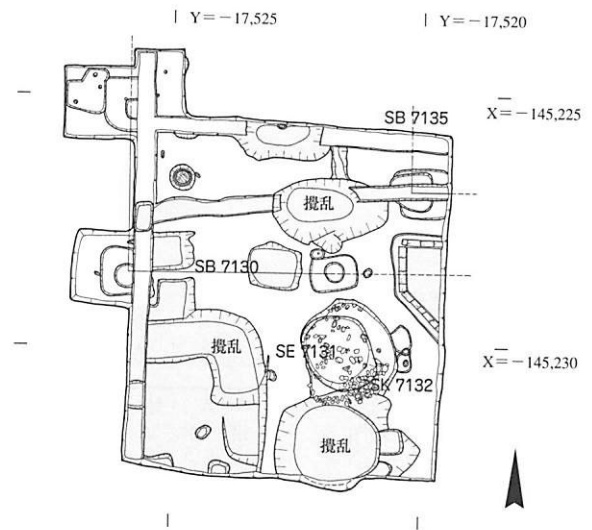


図94 第282-2次調査 遺構平面図 1:150

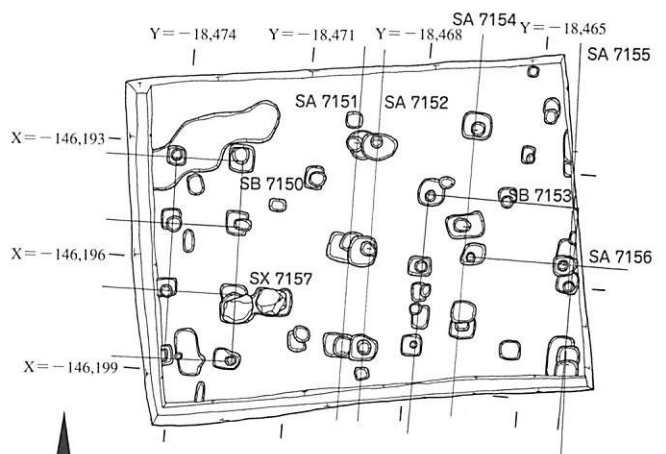


図95 第282-4次調査 遺構平面図 1:200

3 その他の調査一覧

平城宮跡発掘調査部が1997年度に実施した発掘調査で、本巻に掲載しなかったものを表20に示す。

調査次数	地区	発掘区	検出遺構	出土遺物
282-1	右京三条一坊十六坪	東西3m×南北4m	中世以降の溝・土坑など	平瓦4点、丸瓦14点、埴1点
282-5	左京三条二坊六坪	東西7m×南北5.2m	東西方向に並ぶ柱穴2基と南北溝1条 既調査区との関係から奈良時代の遺構	平瓦8点
282-8	右京三条一坊九坪	東西4m×南北7m	掘立柱柱穴2基(時期不明)	平瓦5点、丸瓦4点
282-9	宮北方遺跡	L字型トレンチ(幅約3m、 東西2.8m×南北8m)	浅い谷状をなす地山の落ち込み 奈良時代の瓦片を含む地土で埋め立てる	平瓦69点、丸瓦23点
282-15	頭塔(史跡整備)	L字型トレンチ(幅約60cm、 東西5.9m×南北3.4m)	第7段石積解体にともなう調査 第7段石積最下段部分を検出	軒平瓦6732Fa型式1点、 平瓦15点、丸瓦7点

表20 1997年度 その他の調査一覧表

平城 専 こらむ 欄 ④

◆『むれしか』100回

奈良県警察の月刊誌・『むれしか』の表紙裏に、発掘成果をもとにした

原稿を掲載して9年の年月が経過した。平城調査部員が、400字以内という制限の中で書きつづってきた小論

文は、平成10年の9月号で記念すべき第100回目を迎える。記念号の執筆ははたして誰の手に!? (T)

No.	年月	表題	執筆者	No.	年月	表題	執筆者
1	90 5	役人の七つ道具	町田 章	35	93 3	木簡の筆跡鑑定	寺崎 保広
2	90 6	富をよぶお金	金子 裕之	36	93 4	日本のピラミッド(頭塔)	高瀬 要一
3	90 7	奈良時代の鏡	杉山 洋	37	93 5	古代の寺参り	山岸 常人
4	90 8	指紋と考古学	佐川 正敏	38	93 7	呪いの人形	小林 謙一
5	90 9	建物部材のひな形	松本 修自	39	93 8	鳳凰紋鬼瓦	毛利光俊彦
6	90 10	平城京の道路	小野 健吉	40	93 9	橋の欄干をかざる擬宝珠	岸本 直文
7	90 11	平城京犯罪事情	館野 和己	41	93 10	奈良の鹿今昔	館野 和己
8	90 12	奈良時代の情報処理	小池 伸彦	42	93 11	平城宮東院庭園の植栽	内田 和伸
9	91 1	隼人の盾	玉田 芳英	43	93 12	造酒司の御井	浅川 滋男
10	91 2	住宅の柱	小澤 毅	44	94 1	酒甕の封印	町田 章
11	91 3	少年犯罪の木簡	森 公章	45	94 2	二条山の石	加藤 真二
12	91 4	平城宮と京の下水道	本中 真	46	94 3	長屋王の御指図が描いた獄の下絵	巽 淳一郎
13	91 5	正倉院建築のルーツ	浅川 滋男	47	94 4	修理司の瓦	次山 淳
14	91 6	古代の品質管理	森本 晋	48	94 5	木簡と墨書土器	森 公章
15	91 7	羊を形どった硯	巽 淳一郎	49	94 6	続・頭塔	小野 健吉
16	91 8	宮殿下に眠る古墳	岸本 直文	50	94 7	よみがえった大極殿	長尾 充
17	91 9	役人の勤務評定	寺崎 保広	51	94 8	古代、都人はうまい水を飲んでたか	小池 伸彦
18	91 10	庭の水と緑	高瀬 要一	52	94 9	奈良時代の梵鐘	杉山 洋
19	91 11	ものさし	島田 敏男	53	94 10	薬師寺は移建されたか	岩永 省三
20	91 12	中国へ伝わった日本扇	中村 慎一	54	94 11	見出しつきの文書の軸	渡邊 見宏
21	92 1	平城京の鬼瓦	毛利光俊彦	55	94 12	なぜ道路が地下に埋まっているのか?	高瀬 要一
22	92 2	淡路島から運ばれた瓦	山崎 信二	56	95 1	僧と尼	山岸 常人
23	92 3	奈良時代の盗難届	渡邊 見宏	57	95 2	奈良時代のゴミ	白杵 勲
24	92 4	宇奈多理の杜	小野 健吉	58	95 3	発掘調査に見る地震	玉田 芳英
25	92 5	建物を組み上げる	上野 邦一	59	95 4	屋根瓦	山崎 信二
26	92 6	最先端のベルト	白杵 勲	60	95 5	平城京の入口	寺崎 保広
27	92 7	どじなギャンプラー	金子 裕之	61	95 6	大安寺西塔跡の保存	内田 和伸
28	92 8	鏡の話(2)	杉山 洋	62	95 7	東朝集殿と唐招提寺講堂	箱崎 和久
29	92 9	平城宮の出っ張り	小澤 毅	63	95 8	鉄で作った人形	小林 謙一
30	92 10	奈良時代のIDカード	森 公章	64	95 9	古代の覚醒剤(シャブ)	立木 修
31	92 11	杯をはこぶ舟	高瀬 要一	65	95 10	大極殿の転変	小澤 毅
32	92 12	今昔住宅事情	藤田 盟見	66	95 11	「封筒」としての木簡	館野 和己
33	93 1	輸入された陶磁器	玉田 芳英	67	95 12	都の街路樹	平澤 毅
34	93 2	季節を示す古代の種	佐川 正敏	68	96 1	酒造りの建物	浅川 滋男
69	96 2	井戸のはなし、みたび	加藤 真二	70	96 3	反逆罪と財産刑	古尾谷知浩
71	96 4	奈良山の瓦工場	岸本 直文	72	96 5	長屋王作宝楼	小野 健吉
73	96 6	掘立柱の柱穴	長尾 充	74	96 7	平城京の銅銭(和同開珎)	白杵 勲
75	96 8	ガラスを作ったルツボ	川越 俊一	76	96 9	籌(ちゅう)のお話	井上 和人
77	96 10	都に届けられた封戸の帳簿	山下 信一郎	78	96 11	柱根のこと	長尾 充
79	96 12	コロンボ警部の眼	高瀬 要一	80	97 1	木製遺物を保存する	高妻 洋成
81	97 2	「五十戸」の人々	金田 明大	82	97 3	なにわ風のかわら	清野 孝之
83	97 4	文例集の削屑	渡邊 見宏	84	97 5	平城宮大極殿跡と朝堂院跡	内田 和伸
85	97 6	大極殿十分の一模型	西山 和宏	86	97 7	木の鉄	小林 謙一
87	97 8	妻を迎える木簡	玉田 芳英	88	97 9	二七体目の石仏	岩永 省三
89	97 10	病氣退治の願い	館野 和己	90	97 11	一木くり抜きの井筒	平澤 毅
91	97 12	古代の庶民住宅事情	運沼麻衣子	92	98 1	とらのほなし	加藤 真二
93	98 2	黒光りする焼物	川越 俊一	94	98 3	平城宮朱雀門の瓦	山崎 信二
95	98 4	奈良時代の住宅事情	古尾谷知浩	96	98 5	石のカラト古墳	高瀬 要一
97	98 6	日本人と履き物	田辺 征夫	98	98 7	古代のビーズづくり	次山 淳
99	98 8	頭塔下古墳の発見	金田 明大	100	98 9	?	?
101				101			
102				102			